

(5) 今後の経営意向

① 経営意向

今後5年間の水産加工業の経営について、どのような考えをもっているかについてみると、全体では「現状維持で経営を続けたい」と回答した事業所の割合が58.7%と最も高く、その他では「事業を拡大したい」という回答が23.3%、「廃業したい」という回答が9.4%、「事業を縮小したい」が6.5%、「事業転換したい」という回答が2.1%となっている。

加工種類別にみると、全ての加工種類で「現状維持」という回答が最も多くなっているが、「水産缶詰・瓶詰」では、4割が「事業規模を拡大したい」と回答しており、「海藻加工品」、「くん製品」、「水産冷凍食品」でも3割以上が「事業規模を拡大したい」と回答している。

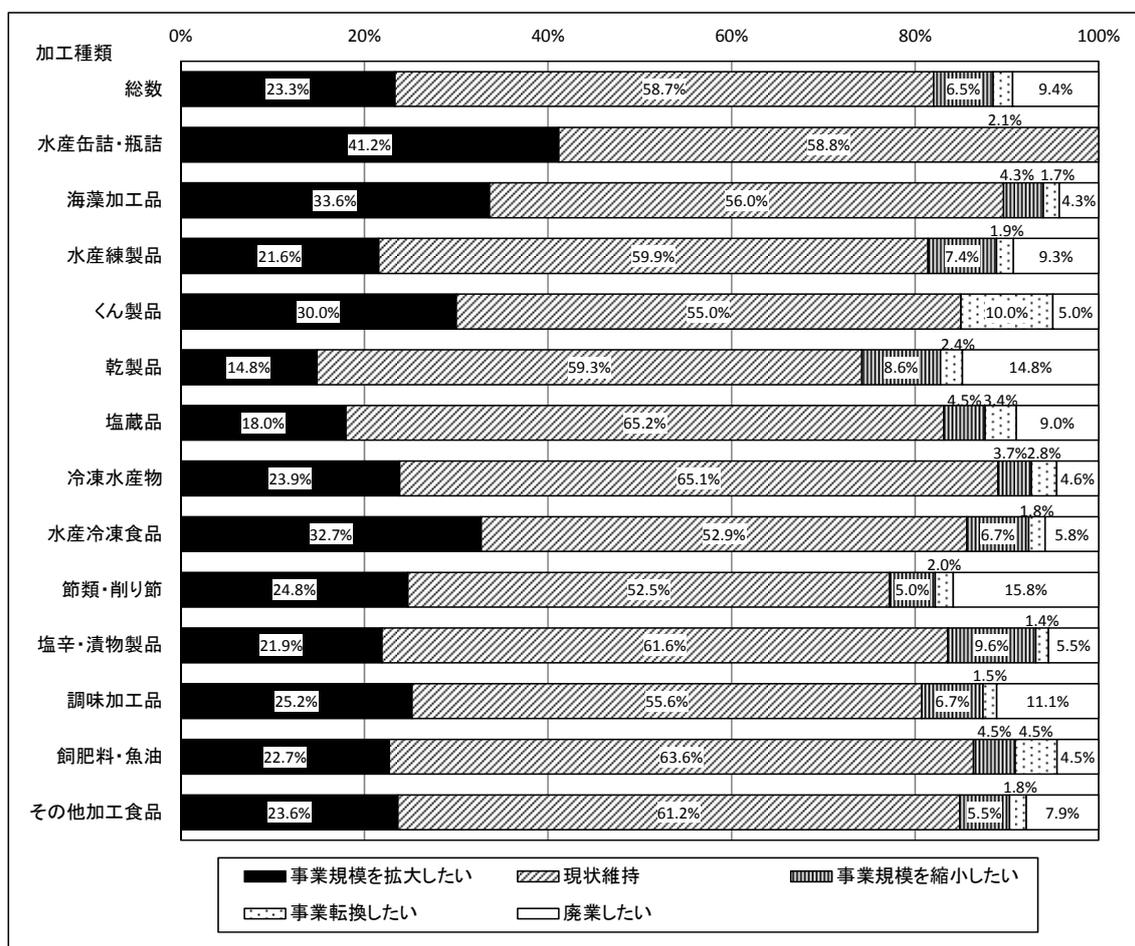


図 II-2-12 今後5年間の経営意向(構成比)

② 今後の経営方針

今後5年間の水産加工業の事業規模について、「事業を拡大したい」「現状維持」「事業規模を縮小したい」と回答した事業所の今後の経営方針の内容についてみると、全体では「新販路の開拓」という回答が58.6%と最も多く、次いで「新製品の開発・導入」が51.4%、「生産工程の合理化」が31.9%となっている。

加工種類別にみても、この3項目が多い傾向は同様であるが、「くん製品」では「新製品の開発・導入」が、「海藻加工品」では「新販路の開拓」が、「水産缶詰・瓶詰」では「生産工程の合理化」が全体と比較して多い傾向がみられる。

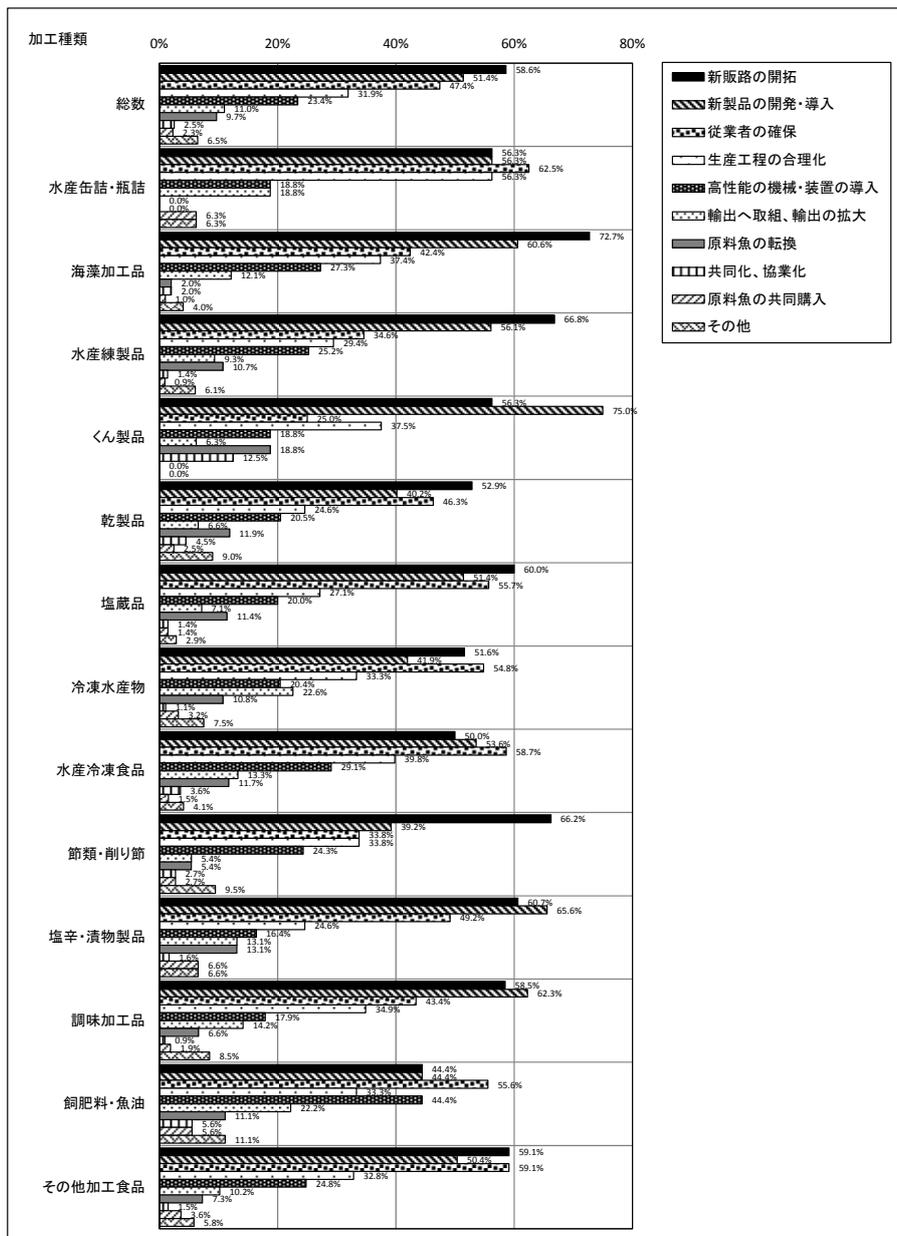


図 II-2-13 今後の経営方針(出現率)

今後5年間の事業規模について、「事業規模を縮小したい」「事業転換したい」「廃業したい」と回答した事業所についてその理由をみると、全体では「収益の減少」という回答が64.2%と最も多く、次いで「後継者が不在」が59.4%、「原料の確保が困難」が43.8%、「労働力の確保が困難」が41.0%が多い。

加工種類別にみると、「節類・削り節」で「収益の減少」の回答が8割以上となっており、「塩蔵品」、「節類・削り節」、「塩辛・漬物製品」「調味加工品」では「後継者が不在」の回答が7割以上と高くなっている。

「冷凍水産物」では、「後継者が不在」は25.0%と他の加工種類に比べて低い一方で、「労働力の確保が困難」が66.7%と高くなっている。

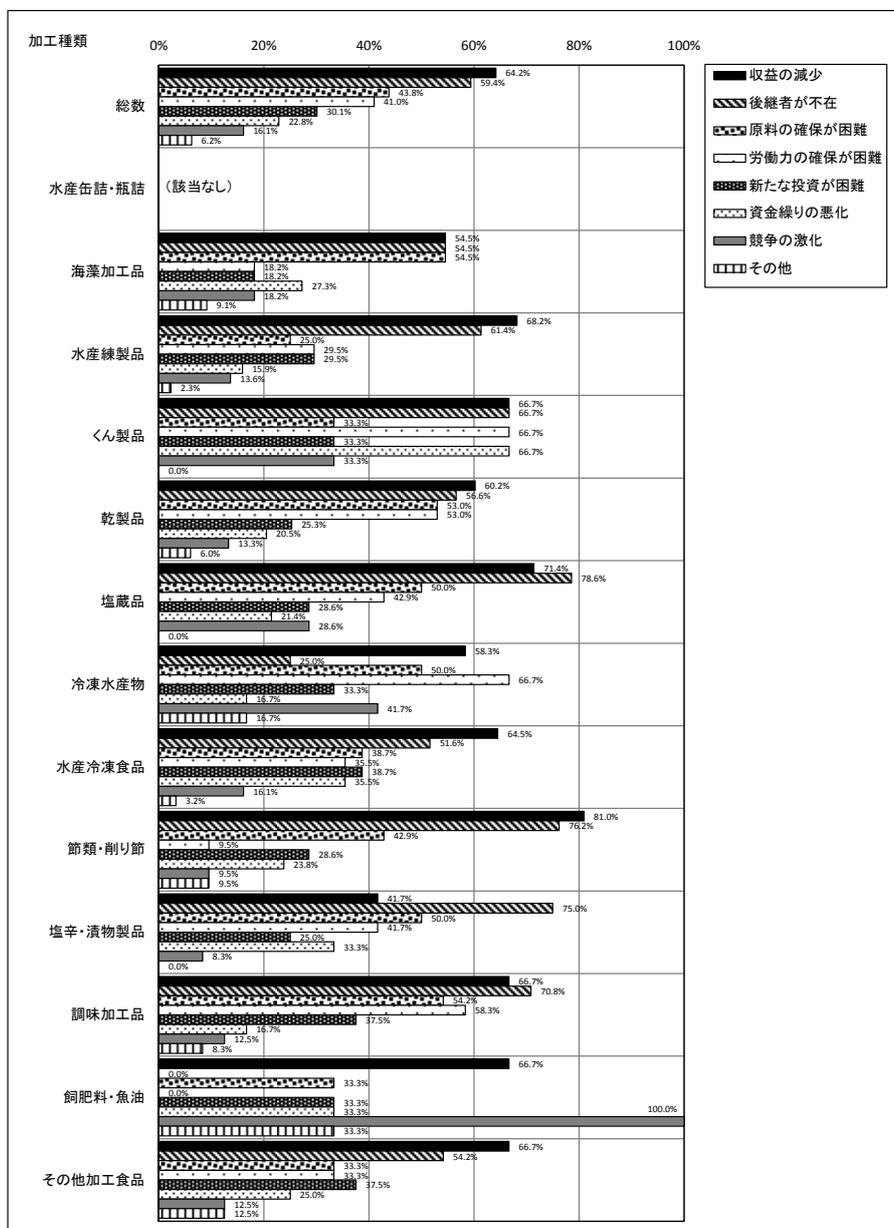


図 II-2-14 事業規模縮小・事業転換・廃業したい理由(出現率)